

群馬県の結核に関わる保健所職員及び医療機関担当者と連携を深めるために、結核に関連した研修会を開催した。また、結核の正しい知識の普及のため、高齢者施設における感染症対策研修会の講師派遣を実施した。今回、医療機関担当者と連携し、結核患者向け服薬手帳を作成したので報告する。

STOP-TB推進委員会活動報告

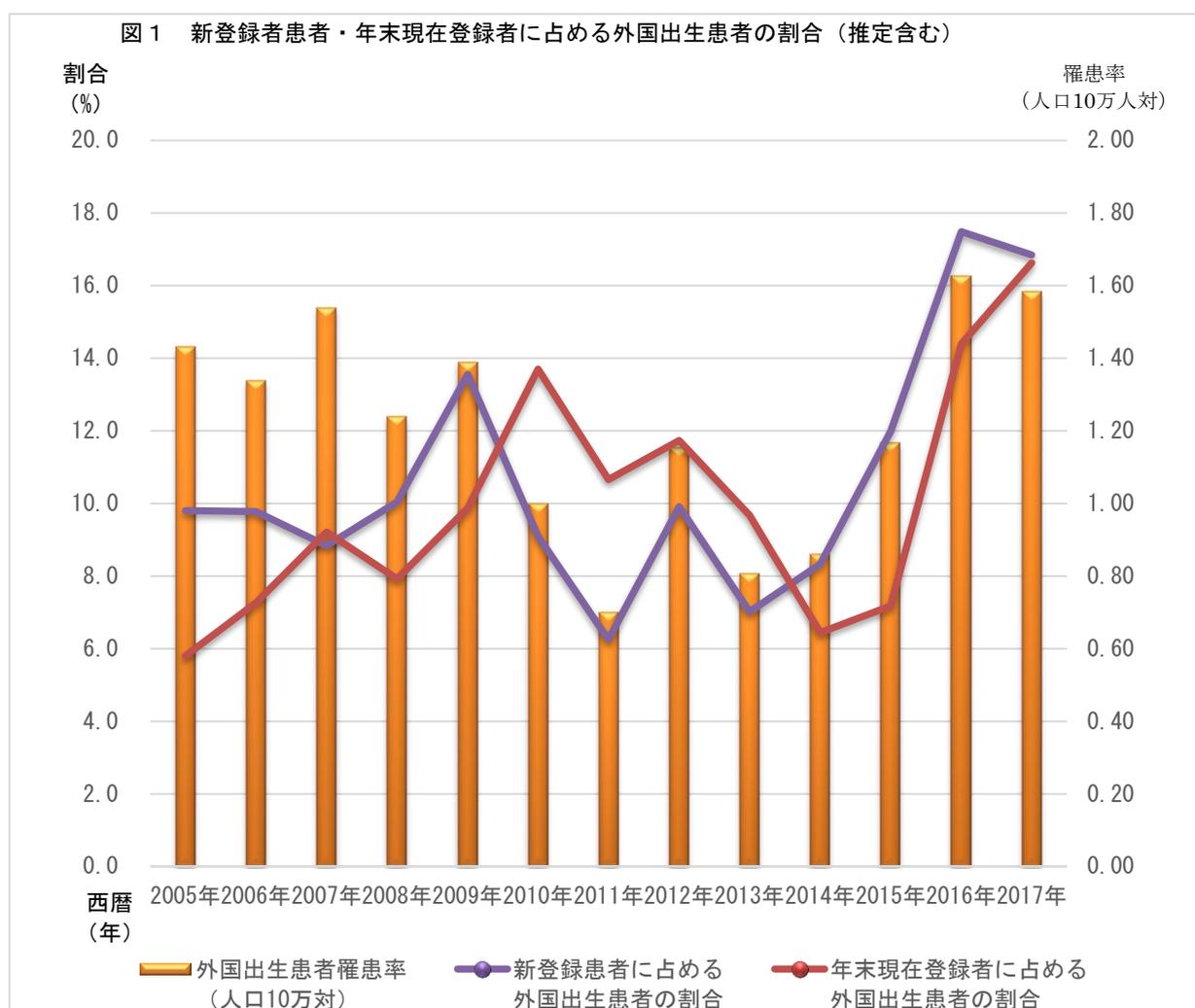
県本部／県職労・伊勢崎保健福祉事務所 江口 奈々

1. はじめに

(1) 結核の現状

① 世界の結核と国内の状況

結核は季節を問わず、年中発生する感染症である。世界に目を向けると、単一病原体として死亡原因1位は結核であり、2017年時点で結核患者は1000万人いると推定されている。日本は結核を急速に減少させた対策として、国民皆保険制度や結核の公費負担制度等が挙げられる。これらの対策と抗結核薬の開発によって、日本の結核罹患率は、高蔓延から低まん延まであと1歩と迫っている。しかし、高齢化による結核発病が半分を占めている現状や外国人労働者の流入による若年者結核発病の課題がある。(図1)

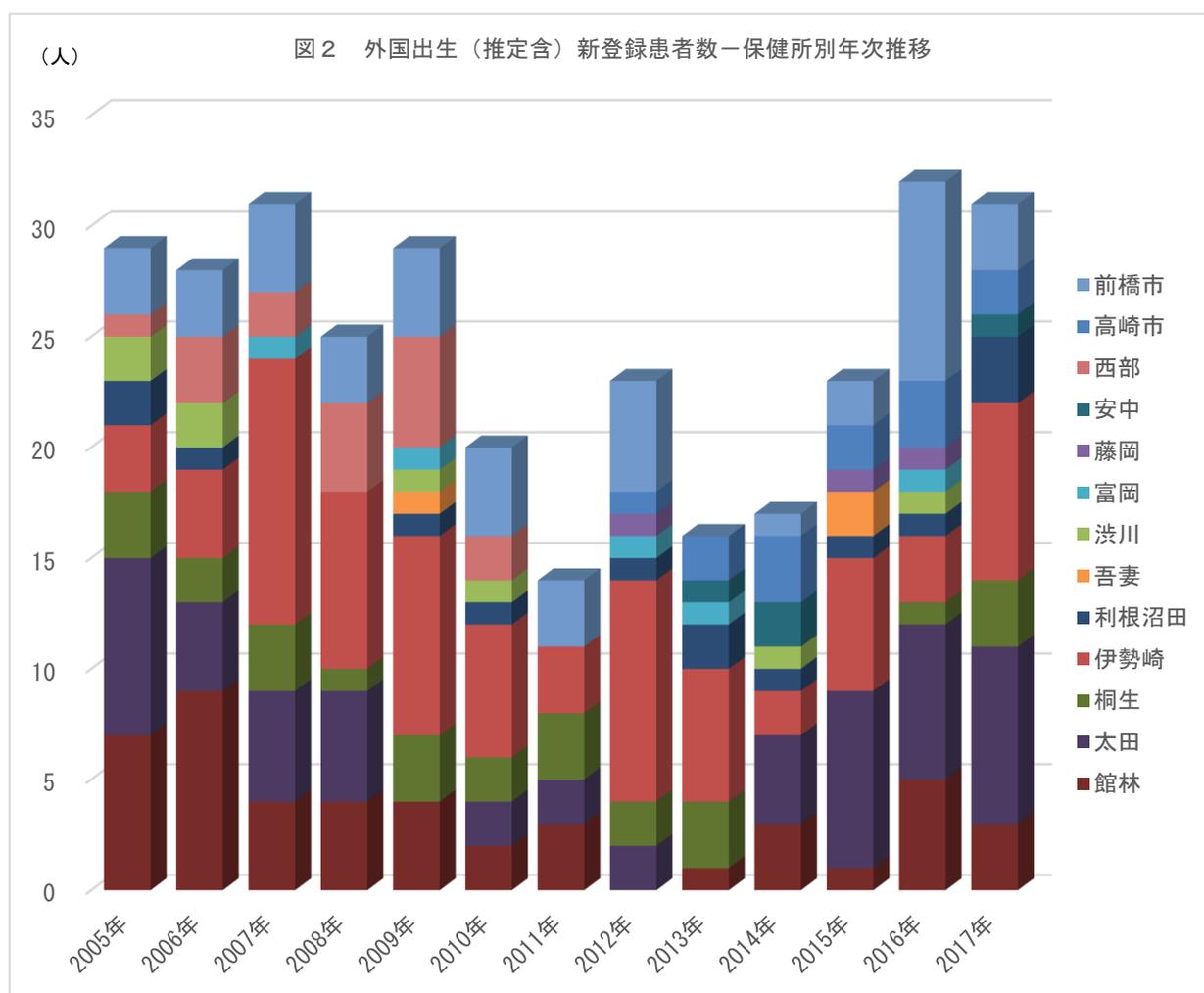


② 結核の課題

結核に対する関心の薄れが結核の発見の遅れに結び付き、全国の集団感染事例の中に結核が重症化して発見される事例が散見される。結核は早期発見することで、入院治療をせずに、通院治療することが可能である。早期発見につなげるために、保健所は医療機関と連携し、結核の持続的な啓発を続ける必要がある。医療機関は院内感染対策委員会を設置しており、主に院内感染対策委員の看護師が保健所職員の窓口となっている。

患者の治療完遂と周囲の感染拡大防止の目的は同じであり、保健所と医療機関が連携することによって、最強の患者の支援者となる。現在、医療機関の感染管理認定看護師や院内感染対策担当者に声をかけ、当会の研修会参加をしていただいている。研修会は月1回開催し、結核の最新情報や研修会報告から結核以外の感染症まで、学ぶことができる。

本県は結核患者が減少している中で、外国出生者の割合が依然として高く、全体の16.8%を占める。また、外国出生新登録結核患者数は、伊勢崎・太田に続き、前橋・利根沼田・館林・桐生の順に多く、外国人結核患者の偏在化が顕著である。外国出生新登録結核患者数の出生国別割合ではフィリピン、ベトナム、中国、ネパールの順に多い。(図2)



2. 目的

医療機関の感染管理担当者や研修会を通して、結核の知識の普及啓発に努め、行政担当者と顔の見える連携強化を図る。また、高齢者施設職員への結核及び感染症対策の研修会の講師派遣を企画し、結核の正しい知識の普及・啓発を図る。

3. 活動内容

行政担当者及び医療機関担当者向け研修会を8回開催し、最新の結核対策情報の共有や実際の症例を通して、行

政担当者のスキルアップや医療機関感染担当者のコミュニケーション強化を図った。（表1）

表1 研修会実施状況

開催日	内容
2018年6月29日	結核関連の臨床検査（薬剤感受性）について
2018年8月24日	肺結核の特徴的な画像所見について
2018年9月28日	平成30年度結核予防技術者地区別講習会における最新情報
2018年11月30日	県内の結核健康診断受診状況について
2019年1月18日	風しんの流行状況と疑い事例の対応 結核研究所保健師・看護師基礎コース参加報告 「痰について」 「低栄養結核患者への支援や連携について」
2019年3月15日	除菌と消毒の違いについて 「第24回国際結核セミナー」参加報告 「第70回結核予防全国大会」参加報告
2019年5月24日	入国前結核健診に関するセミナー参加報告
2019年6月28日	疫学データ解析演習
2019年7月26日	結核治療における薬剤および薬剤師の役割 結核患者向け服薬手帳の見直し
2019年8月31日	「令和元年度結核予防者関東甲信越地区別講習会」参加報告 複十字病院DOTSカンファレンス参加報告 結核患者向け服薬手帳見直し
2019年9月27日	一類感染症患者移送対応訓練の報告 感染症法における結核対策 解釈と運用
2019年10月25日	結核の特徴的な画像所見 今更聞けない接触者健診
2019年12月20日	結核に関するもろもろのルール



研修会の様子

高齢者施設における研修会講師として4回派遣し、施設職員に対して結核の正しい知識の普及と感染対策の重要性を伝えることができた。（表2）

表2 研修会講師派遣状況

No.	区分	項目	内容	対象者	人数
1	特別養護老人ホーム	感染症	施設内感染対策	施設職員	50人
2	〃	〃	〃	〃	50人
3	〃	結核・感染症	施設内感染対策・結核対策	〃	100人
4	〃	〃	〃	〃	100人

また、結核患者は約6カ月に及ぶ長期間の服薬を続ける必要があり、保健所と医療機関は患者に服薬の自己中断の有無や抗結核薬の副作用に注視しながら、服薬を支援する。今回、結核患者向けに服薬中の注意点や長期間の服薬を支援するために、医療機関感染担当者の意見を取り入れ、服薬手帳を作成した。医療機関感染担当者の意見を取り入れ、患者が毎日使用する服薬手帳を楽しく記載できる工夫や痰の検査のコツ、副作用の注意点を確認できる項目を盛り込んだ。（下図）



痰の検査について

痰は感染力の強さやお薬が効いているかの確認をするために行われます。治療の開始前だけでなく、治療の終わり頃に痰の検査をして、きちんと治療の効果を確認しましょう。

痰の出し方のコツ

- のどをうるおしたあと、大きく深呼吸をします「鼻から吸って口から出す」を数回繰り返しましょう。
- 湯を飲む時は、「はっはっ」と勢いよく息を吐き出します。
- 痰は喉と一緒に喉の奥から出てきます。
- 喉をたたくと思ったら、大きく喉込み、痰が上がってくるのを待ちます。



結核の治療を支援します

結核治療中に医師が処方したお薬の服用状況を確認する記録に活用する手帳として、医療機関に活用していただきます。

ご利用が可能な方

- ① 患者さんの治療、主治の医師、医療機関の医師
- ② 医療機関に医師が処方したお薬の服用状況を記録する
- ③ 医療機関に医師が処方したお薬の服用状況を記録する

ご利用が可能な方

- ① 医師が処方したお薬、主治の医師、医療機関の医師
- ② 医療機関に医師が処方したお薬の服用状況を記録する
- ③ 医療機関に医師が処方したお薬の服用状況を記録する

医師、医療機関が印刷してください！
 患者さんご自身で印刷していただくことはできません。
 印刷後、医師に提出してください。

医師、医療機関

医師名: _____
 科: _____
 担当医師: _____

患者さんの地域の医療機関

医師名: _____
 科: _____
 担当医師: _____

手帳をご活用ください

結核、新しい治療法は医師、医師から処方されたお薬の服用状況に記録していただくことで、医師が治療の進捗を確認し、適切な治療法を選択し、適切なお薬を処方していただくことが期待されます。

しかし、患者さんご自身で印刷していただくことはできません。印刷、医師が印刷していただくこと、印刷後、医師に提出していただくことが期待されます。

この手帳は医師の処方箋に基づき、その後の経過観察でも医師に提出し、医師が処方したお薬の服用状況を記録し、医師が適切な治療法を選択し、適切なお薬を処方していただくことが期待されます。



毎週、1回必ず自分のスケジュール表

178	179	178	177	176	175	125	125	124	123	122	121
169	170	171	172	173	174	127	128	129	130	131	132
168	167	166	165	164	163	138	137	136	135	134	133
157	158	159	160	161	162	139	140	141	142	143	144
156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145

医師、医療機関が印刷してください！
 患者さんご自身で印刷していただくことはできません。
 印刷後、医師に提出してください。

医師、医療機関

医師名: _____
 科: _____
 担当医師: _____

患者さんの地域の医療機関

医師名: _____
 科: _____
 担当医師: _____

サポート手帳

日	月	年	時	分	秒

4. まとめ

結核は地域によって抱える課題が異なり、行政担当者の課題解決のための自己研鑽が望まれる。また、最近の多剤耐性結核症例の増加は、今後の結核対策において重要な課題となることが予想される。結核治療において、適切な服薬期間及び適切な抗結核薬の服薬である。しかし、これらの課題を行政担当者と医療機関が共有し、お互いの専門性を活かして、結核対策を進めていきたい。

今回、抗結核薬の服薬継続を支援するため、結核患者向け服薬手帳を作成し、患者が長期間使用を継続でき、服薬中の注意事項などを盛り込んだ内容となった。今後も継続的な研修会の開催や専門性を活かした研修会講師の企画を実施する。